

空間デザイン通信

2026
VOL.33
SUMMER

東京に進出して10年、 本社機能を東京に移転しました！

東京に事務所を開設してから、おかげさまで10年という節目を迎えることができました。これまで多くのお客様、お取引先様、関係者の



これから空間に、『美しさ』・『豊かさ』はもちろん、「空気質」の観点も大切にデザインを手がけていきます。

皆様に支えていただき、事業を継続・発展できましたことを、心より感謝申し上げます。

この10年間で、世界情勢や事業環境・お客様のニーズは大きく変化し、当社も

さらなる成長と進化が求められる段階に入りました。

そこで、より迅速かつ柔軟な意思決定を行い、国内外のお客様やパートナー企業の皆様との連携を一層強化していくため、このたび本社機能を、大阪オ

フィスから東京オフィスへ移転することといたしました。東京を拠点とすることで、右にまとめたとおり4つのメリットがあると考えています。本社移転によりこれまで以上にスピード感を持った事業展開が可能になると考えております。

東京拠点の4つのメリット

- ① 対面での迅速な交渉や情報収集
- ② 東南アジアをはじめ、海外市場へのアクセス向上
- ③ 多様な業種・分野のパートナー企業との連携強化
- ④ 新たなビジネス機会の創出

これを新たなスタートと位置づけ、社員一同、より高い価値をご提供できる企業を目指して、一層努力してまいります。

今後とも変わらぬご支援、ご愛顧を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。



(阿部)

3年目のベトナムの子会社も オフィス移転で新たな成長フェーズへ！

2026年の幕開けとともに、ベトナムチームにとって大きな節目となる嬉しいニュースがありました。1月より、私たちは新しいオフィスへ移転いたしました。新しいワークスペースは、これまで以上に広々としており、モダンで開放感のあるデザインが特徴です。自然とコミュニケーションが生まれるレイアウトや、集中して業務に取り組める快適な環境が整い、メンバー一人ひとりがより前向きな気持ちで働ける場所となっています。

今回の移転は、単なるオフィスの変更ではありません。これから迎えるさらなる事業拡大と成長に向けて、私たちが新たな一歩を踏み出すための大切な挑戦でもあります。より良い環境を整えることで、チーム全体の連携や創造性が高まり、新しいアイデアや価値が次々と生まれる土台が

築かれています。

特に嬉しく感じているのは、新しい空間がメンバー同士をつなぐ架け橋となっていることです。日々のコミュニケーションがこれまで以上に活発になり、互いに支え合いながら成長できる関係性がさらに深まっています。

私たちは今、「仕事を楽しみながら、自分自身も成長できる職場」を目指し、チーム全員で理想の環境づくりに取り組んでいます。新たな活気とエネルギーに満ちたベトナムオフィスは、次なる飛躍に向けて準備万端です。これからも着実に成長を続けながら、お客様やパートナーの皆様により高い価値と信頼をお届けできるよう、チーム一丸となって挑戦を続けてまいります。今後のベトナムチームのさらなる成長に、ぜひご期待ください。



コミュニケーションが取りやすくなった開放的なワークスペース



空間デザイン ベトナム現地法人

ダナン市 カムレー区
グエンフートー通り 458 番 X2 オフィスビル 3 階



(フォン)

新オフィスのエントランス



設計

星田エリアの長年の悲願だった 交野市消防団の集会室・車庫が竣工！



新しい星田分団の集会室・車庫の外観



畳の集会室も完備



オーバースライダー型のシャッター

弊社が設計・監理を行った大阪府交野市消防団星田分団の集会室・車庫の建物が3月末に竣工しました。この建物の周囲は、防災公園も整備されました。

建物は、1階が車庫、2階が集会室となります。2階の一部に和室と床下収納も設けました。屋根は入口側に2.5m持ち出して庇となるように設計しました。トイレは1階と2階の両方に設け、2階を利用しない時でもトイレが使用できるようにしました。シャッターはオーバースライダー型とすることで、ポンプ車や消防車が入れる天井高を確保しました。この建物が、安全な暮らしを守る消防団の活動拠点として安心を支える一助となれば幸いです。



(渡邊)

調査報告

新社屋における執務者のウェルネス調査 ～室内環境測定とアンケートによる検討～報告

中小企業家同友会の友人から新社屋建設の設計依頼をいただいた時、「人を大切にする経営」をモットーとしている設計会社として、建物の建替えにより従業員の職場満足度や会社満足度などのウェルネスはどう変わるのか知りたいと思いました。そこで畿央大学健康科

学部人間環境デザイン学科東研究室に相談し、旧社屋利用時と新社屋利用時、従業員の執務環境測定調査やアンケートによるウェルネス調査を実施していただきました。調査の結果、室内環境評価として特に空気環境と空間環境の評価が上昇したのはもちろんですが「いき

いきした職場」「愛着のある職場」「仕事への誇り」などの評価が顕著に向上し、女性従業員の評価も上昇したことは本当に嬉しいです。これからも、建築設計の側面から人を大切にする会社の良い職場づくりを続けていきたいと思っています。



(山本)

BOOKS

著者が建築家のいままでなかった建築文学作品と、 人生を豊かに変えるデンマークの時間術を紹介！

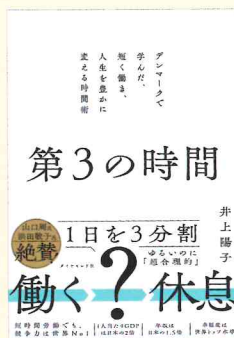


「時の家」
鳥山まこと [著]
(講談社 / 2,090円)

芥川賞と野間文芸新人賞をダブル受賞した作家で建築設計者の鳥山まことさんの小説『時の家』を読みました。小説は建材の日射熱膨張や空気温熱環境。躯体の力学的変形、経年劣化やプランニングの描写など、設計者ならではの視点で建物を生き物のように描写し、思わず「その通り」と同感しきりでした。小説の内容も静謐で緻密ながら興味深く、専門的描写が多いにも関わらず、一般の方々に理解され評価されたことは同業者として嬉しいです。今まで建築士（建築家）は自身の設計した建物を紹介した作品集やその建築思想についてまとめた専門書は発刊していますが、一般小説という形で世の中に広く建築設計の思考や行為を題材に、文学作品として高い評価を受けることはなかったと思います。皆様、ぜひ読んでみてください。



(阿部)



「第3の時間」
—デンマークで学んだ、
短く働き、人生を豊かに
変える時間術
井上陽子 [著]
(ダイヤモンド社 / 1,740円)

この本は、デンマークの働き方や暮らし方を通して、「時間の使い方」について新しい視点が示されています。日々、総務や労務の立場で社員の働き方に関わる中で私たちはつい1日を「仕事」と「プライベート」に分けて考えがちです。そこにもう一つ、「第3の時間」という考え方があることを、この本は教えてくれます。それは、役割や義務から少し離れた、「自分自身のための時間」です。デンマークでは、この時間を大切にしており、趣味や家族との時間、何もしない時間さえも、人生を豊かにする大切な要素として捉えています。働き方を整えることは、単に労働時間を管理することではなく、「時間の質」をどう捉えるかも大切なのだと、気づかされました。私自身も、1日を3つの時間として捉え、柔軟な時間の使い方を意識していきたいと思っています。空間デザインとしても、人を大切にする経営の一環として、働き方や時間の在り方について考え続けていきます。



(相原)

工事
監理

施工と設計をつなぐ工事監理業務で、 不具合の早期発見と品質向上に努めています

弊社では、自社で設計した案件を中心に、工事監理業務も行っています。現在はRC造建物の工事が進行しており、現場での確認や施工者との調整を行っています。

工事監理は、工事が設計図書通りに適切に進められているかを確認し、建物の品質を確保する重要な業務です。単に現場を確認するだけではなく、施工者と打合せを重ねながら、設計意図を正しく形にしていける役割も担っています。

工事の各工程では、さまざまな検査を実施します。躯体工事では、コンクリート打設前に配筋検査を行い、鉄筋の径やピッチ、かぶり厚さなどが図面通り施工されているかを確認します。構造的な安全性に直結するため、特に重要な検査の一つです。

また、設備や内装工事では、スリーブや開口位置の確認、配管・ダクトと構造体の干渉チェックなども行います。図面上では問題がなくても、実際の施工段階で納まりが厳しくなることもあり、現場での確認と調整が欠かせません。

さらに、仕上げ工事前には下地の精度やレベル確認を行い、最終的な仕上がりや使い勝

手に影響が出ないように細かな調整を進めます。このように工事監理では、工程ごとに検査と是正を繰り返しながら、不具合の早期発見と品質向上に努めています。

これまで鉄骨プレハブ造の工事監理にも携わりましたが、構造形式が異なることで工程や納まり、必要な検討事項が大きく変わることを実感しました。特にRC造では、躯体工事に時間と手間がかかる分、一つひとつの判断が後工程に大きく影響するため、現場での確認の重要性を強く感じています。

設計段階では図面上で検討を重ねますが、実際に立ち上がった空間を見ることで、「想像より狭く感じる」「納まりに無理がある」といった新たな気づきを得ることも少なくありません。図面だけでは把握しきれないスケー



工事監理は建築基準法で定められており、一定規模以上の建築物には工事監理者の選任が義務付けられています。

ル感や施工性を体感できることは、工事監理業務ならではの学びだと感じています。

現在は設計業務と並行して工事監理にも関わっており、施工時の視点を意識しながら図面を作成することの重要性を日々学んでいます。今後も現場で得た知識や経験を設計へフィードバックし、より精度の高い図面作成と円滑な施工につなげていきたいと思っています。



(檜垣)

COLUMN
第3回

高経年マンションの未来について考える

マンションの終わりを考える

2026年4月1日に区分所有法が改正され、マンション管理規約の基本となる「標準管理規約」も見直されました。今回の改正では議決権の変更に注目が集まっていますが、その背景を正しく理解する必要があります。

少子高齢化や人口減少が今後さらに進むとされる一方で、着工数は減少して

いるものの分譲マンションの新築供給は続いています。現在の社会が分譲マンションに求める利便性、快適性、安全性といった基本的な水準を満たせない高経年マンションは、近い将来、資産価値を大きく失う可能性があります。こうした分譲マンションの再生手法として、「建て替え」「長寿命化(主に耐震化)」「解散」の3つの選択肢を取りやすくすることを意識したのが今回の改正です。つまり国は、高経年マンションに対して、いずれかの方向性を選択し、早期に準備を進めることを求めていると言えます。しかし、どの選択肢を選んだとしても多額の費用負担が発生するため、高齢化が進んだマンションほど議論自体が避けられる傾向があります。その結果、問題は先送りされ、本来次世代を担うべき区分所有者へ負

担が押し付けられる状況となっています。だからこそ、分譲マンションの未来について正しい情報を共有し、現実的な議論を行うことが重要です。

2021年の日本建築学会技術報告集では、明海大学の藤木亮介准教授が「マンションにおける超長期修繕計画」について論じています。これはある意味で、「マンションの終わり」を考えるきっかけとなる計画とも言えるでしょう。今回の区分所有法改正は、あくまで個人財産を適切に守るための「私法」の見直しですが、新旧を問わず、すべての分譲マンションが抱える共通課題であることを改めて認識する必要があります。また、人口減少時代を迎える中で、「公法」により個人財産に対する一定の制限を設けたうえでの分譲マンション再生手法についても、今後さらに議論が必要ではないかと感じています。



(桑原)



高経年マンションは、資産価値を大きく失う可能性があります。





ベトナム通信 vol.05

ベトナムの旧正月「テト」の風景

ベトナムの旧正月「テト」は、1年の中で最も重要で特別な行事です。テトの時期になると、多くの人々が故郷に帰り、家族と一緒に新年を迎えます。都市部で働く人々も、実家に戻るため街は静かになります。

一方で、年末に近づくとも市場やスーパーは賑やかになり、テトの準備をする人々であふれます。大晦日には家族が集まり、先祖に感謝を伝



活気ある市場で売られている黄色い花「ホアマイ」

えるお供えをします。そして新年になると、子どもたちは大人からお年玉をもらい、新しい服を着て親戚や近所の人に新年の挨拶をします。

ベトナムは南北に長いので、地域によって気候が大きく異なります。北部は涼しく、時には肌寒い気候で、桃の花が咲きます。南部は暖かく乾燥しており、黄色い花「ホアマイ」を飾るのが特徴です。地域ごとに特徴的な伝統料理があります。北部では、「バインチュン (Bánh chưng)」という伝統的な料理が欠かせません。もち米や豚肉、緑豆を使った四角いちまきのような料理で、家族みんなで作ることも多いです。一方、南部では「バインテット (Bánh tét)」



バインチュン バインテット

が食べられており、材料は似ていますが、細長い円筒形をしているのが特徴です。



また、年末 家族揃ってお墓参りには家族で祖先の墓を訪れる「お墓参り」の習慣があります。墓をきれいに掃除し、お供えをして新年の報告と感謝の気持ちを伝えます。先祖とのつながりを大切にするベトナムならではの文化です。テトは単なる年越しの行事ではなく、家族の絆を深め、過去に感謝し、新しい一年の幸せを願う大切な時間です。ベトナムの人々にとって、テトは心をリセットする特別な瞬間と言えるでしょう。



(ハン)

仕事旅行

見たことない職場を、旅するように訪問する、職業体験企画で話題の「仕事旅行」に登録しています！

「仕事旅行」とは、“やりたいことがまだ見つからない”“今の仕事以外の世界も見てみたい”——そんな人たちが、自分を見つめ直し、新しい可能性に出会うための体験型サービス



「はたらく」の視野と裾野を広げる「仕事旅行」は、右のQRコードからアクセスしてください！

仕事旅行

<https://www.shigoto-ryokou.com/>



です。この「仕事旅行」に弊社は、ホストパートナーとして参加しており、「公共スペースのデザイン体験、空間デザイナーになる旅」を提供しています。4月からスタートして現在6名の方が空間デザインの仕事を1日体験しました。

「大人版キザニア」とも例えられるこのサービスは、社会人でも学生でも、誰でも気軽に「別の仕事」を1日体験できるのが特徴で、選べる職種は常時およそ100種類。花屋や農業といった身近な仕事から、神主、占い師といった少しユニークな職業まで、その幅広さも魅力です。一般的なインターンシップが、企業と応募者の「採用マッチング」を目的とするケースが多いのに対し、「仕事旅行」は採用とは完全に切り離され、あくまで目的は、“働

く”を通じて新しい視点や価値観に触れることなので、肩肘張らずに参加できます。空間デザイナーを体験したい方は、ぜひ参加してみてください！お待ちしております。



(相原)

編集後記

最後までお読みいただきありがとうございます。時折「読みましたよ」とお声かけ頂く機会もあり、そのお声は私達にとって大きな励みとなっております。さて、空間デザインはこの春本社移転、ベトナム子会社オフィス移転と新たなスタートを切りました。皆様におかれましても、学校や職場で新年度を迎えられ、「様々な新しいこと」を体験されているかと存じます。私達が身を置く建築業界も驚くスピードで変化しています。その変化に柔軟に対応し成長し続けるため、社員一同、新しいチャレンジに臨むことなく、更なる自己研鑽に努めてまいります。引き続きよろしくお願いいたします。



(中尾)

空間デザイン通信 33号 2026年6月発行

東京オフィス (本社)

〒170-0005
東京都豊島区南大塚 3-12-9
喜多ビル5階
TEL.03-5980-8535



大阪オフィス

〒564-0062
大阪府吹田市垂水町 3-24-1
シンプレックス江坂 402
TEL.06-6192-8751

